

バイブルスタディ Pastor JD Farag
 エペソ人への手紙 6:14 b-17 「神の武具—サタンの攻撃の真実—③」

2018.09.16

今日は、エペソ 6 章 14 節の最初の 3 つのことばを取り入れながら、17 節まで見ていきます。
 使徒パウロは聖霊によって、エペソの教会にこう書いています。

エペソ 6:14-17

14 そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

15 足には平和の福音の備えをはきなさい。

16 これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。

それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

17 救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

祈りましょう。

愛する天のお父様、聖霊があなたの教会である私たちに語られる時、敵はそれを聞く耳を与えまいと全力を尽くすことが、この御言葉から分かります。ですから、あなたに集中できるように助けて下さい。

それは、あなたにしかできないことです。

敵が私たちの気を散らしたり、あなたが今日、御言葉から用意しておられること以外のものに私たちの思いを向けさせませんように。

主よ、お語り下さい。しもべは聞いています。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

今日は、神の全ての武具についてお話したいと思います。神の全ての武具です。

もっと詳しく言うと、神の武具が実際にどのように機能するかについてです。

エペソの人たちにこの手紙を書いた時、パウロはローマの監視下にありました。

ローマの守衛たちが全ての武具を身に着けているのを、彼は見ていたはずですが。

それで、霊的戦いに於いて私たちが準備できるように、またサタンの攻撃に対抗できるように、神が与えた武具に関して、聖霊によって最高のたとえを示したのです。

実は、この箇所に来るまで、敵は私がこれを単純明快に教えることができないようにと、個人的にありとあらゆることをしてきたので、細心の注意と祈りをもって取り組んできました。

だから、あのよう祈ったのです。

神の武具とその働きについて、全力を尽くして教えますので、皆さん、忍耐して聞いて下さい。

象徴的な武具のそれぞれの面を見始めていくと、クリスチャン生活のあらゆる面で、実際に当てはまるのが分かります。

では、各武具の説明と実際的な適用を先ず見ていき、その後に時間を取って、それぞれをもう少し深く見ていきたいと思えます。

先ほどの賛美の時、更には第一礼拝前の祈り会でも、神の武具の中の二つについて、私は主に尋ねていました。

この二つにはより時間をかけたいのですが、これ以外の武具が重要じゃないと言っているのではありません。

主は神の武具に関して、特に二つの真理を私の心に焼き付けたので、今日はそのことをシェアしたいと思えます。

私の祈りと願いは、私自身を含め全員が、主が知って欲しい、見て欲しいと願っておられることを、もっと理解できるようにということです。

だから、主にその助けを求め、いつも、見る目と聞く耳、それと理解する心とを求めています。

神様があなたの人生に語っていることを聞くために、あなたは今日ここにいる。ですね。

私はそう思っていますよ。

神のことばを共に学ぶ時を無駄にしたいはずです。

では、早速取り掛かりましょう。いいですか。

神の武具がいかにかを働かを見ていきます。

①真理の帯

これを腰に締めることによって、全てが固定され、倒れないようになります。

パウロが列挙している武具の順番に目を留めて下さい。

真理の帯が全てを準備万端に整えるものなので、これから始まる必要があります。

②正義の胸当て

真理の帯が正しく締められたら、正義の胸当てもまた、正しい位置に置かれなければなりません。

これは、生命維持の器官で一番重要な心臓を守る役目があります。

これに関しては後ほど時間をかけてお話します。

③履物（平和の福音の備え）

興味深いですね。これ、サンダル。

間違ったイメージを持たないで下さいよ。

スリッパではないし、特にハワイに住んでいる皆さん、ビーチサンダルではありません。

これは、革ひもで巻き上げて足を固定する履物で、堅固な足元としっかりした歩行を提供します。

そして完璧です。

なぜなら、まさにこれが、福音によってもたらされることだから。

④信仰の盾

これは、突き通すことができない防御装備として、“これら全ての上にとらなければならない”と興味を引く説明が書かれています。

それも他でもない、“敵の火矢を消す時に”です。

敵は、先端が燃えている矢を放ちます。

そこで、盾を水に浸して装着すると、放たれた火矢の火が消され、自分たちを守ることができるのです。

⑤救いのかぶと

これも時間をかけて説明したいと思っています。

これは考えや思いを守ります。

⑥御霊の剣（神のことば）

これは唯一、攻撃のための武器です。

**神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫く
(ヘブル 4:12)**

それでは、詳しく見ていきましょう。

①真理の帯

何よりもまず、真理の帯はしっかりと定位置に締めなければなりません。

特に男性の皆さん、私を変なヤツだと思わないで下さいよ。

これは、ガードルみたいなものです。

これによって、身に着けているものを中に入れて、まとめて締め、固定し、兵士たちがもっと自由に動けるようにするのです。

もう一つ重要なのは、全ての武具は真理の帯に繋がっていて、これによって結び付けられているということ。かぶとは頭に被っていない時は、帯の留め金にかけられています。御霊の剣は帯の中。剣というよりも短剣ですが。これは後で話します。履物は、革ひもが帯の所まで巻かれ、帯に結ばれている。そして、正義の胸当て。これは一番重い武器で、生命維持に重要な器官を守るのですが、単に比喻ではなく、霊的にもそうです。これも後から見ます。

ということで、全ての武器が帯によって繋がっていて、然るべき所に整えられるのです。使徒パウロが「帯が真理だ」と言ったのは、非常に適切だと思いませんか。なぜなら、真理が全てを保ち、結び付けているのだから。あなたに真理がないなら、全てがバラバラになってしまいますよね。だから何よりもまず、真理の帯を正しく、しっかり締めなければなりません。それがなければ、他の武器のことはあなたには関係ない。このことは議論するまでもなく、取るに足りないこと。全てのものは、真理の帯で結び付けられなければならないのです。

②正義の胸当て

これも、あるべき位置になればなりません。何かを他のものよりも重要だとあまり強調したくはないけれど、これは一番重たい武器で、他よりも重要な武器の一つだと思っています。理由は明白。もし、火矢が心臓以外の部分に突き刺さったとしても、まだ生きていられる可能性はあります。仮に私の足に火矢が当たっても、生きていることは可能です。足を失うかもしれませんが、それでも生きていられます。でも、生命維持の器官である心臓に刺さったら、もう終わりです。死ぬ。敵はそのことを知っている。だから、胸当てを正義になぞらえているのです。

これには2つあります。その主だったものは当然、キリストから与えられた『義』あなた自身の義、自己義ではなく、キリストの義。しかし、それだけではありません。もう一つは、誤解しないでほしいのですが、『正しい生き方』すなわち、正しく、清いクリスチャン生活を実践すること。これがあなたを守ります。あなたが正しく生きていて、その歩みが主の目にならなければ、神の力による勇敢さと聖別された力がセットで与えられます。心の奥底にある力により、自分が神と正しい関係にあって、正しく生きていることをハッキリ知ることができるのです。

“不義＝無防備”なので、敵はあなたを不義へと誘惑します。不義であるなら、あなたの心臓を一撃することができるから。それで、サタンは、あなたの生活の特定の領域に火矢を放って来るのです。

重要な生命維持器官が危険にさらされ、そうして、敵はあなたを捕らえてしまう。
クリスチャンの思いと考え、これが、敵が狙っているものです。
敵は、あなたが不義の中を歩んでいるなら、平安を失うことを知っていますよ。
つまり、思いと考えを守るのは、パウロがピリピ4章で語っている“人知をはるかに超えた平安”なのです。

何年も前に、本土で牧師をしていた時のことをいつも例に出すのですが、忘れもしません、机を挟んでキリストにある兄弟のカウンセリングをしていた時のことです。
彼は非常に葛藤していて、「罪を犯すと、自分の祈りの生活に影響するんです。」と言いました。
それで私は、「そこがポイントだよ。」
よく注意して下さい。このようにとても現実的です。
サタンは、祈りが決め手だと知っているのです、祈るクリスチャンを最も恐れています。
だから、あなたに祈りを止めさせようと、もう、できる限りのことをして来るのです。

では、サタンは、どうやってそれを成し遂げるのでしょうか。
サタンはあなたを罪と不義に誘惑してきます。
それによって、正しい生き方の中で、主と持っていた親密さと平安が断ち切られるから。
正しい生き方の人とは、誰も見ていない時でも同じ生き方をする人のこと。
誰も見ていなくても、正しく清く生きること。

あなたがたは聖なる者でなければならない。

あなたがたの神、主であるわたしが聖だからである。(レビ記 19:2)

義の中を生きているなら、あなたには勇敢さと聖別された力があり、恵みの御座に近づくことができます。
それは傲慢ではなく、自信過剰でもなく、「私は正しく生きている」という自分の生き方の義に対する確信です。
あなたが正しく生きていなくて、敵によって不義の道へと導かれるなら、突然、祈りの生活が妨げられます。
そのようにして、サタンはあなたを倒すのです。
敵は、祈りが決め手であることを知っているから。

ところで、主のみこころなら、来週は武具の働きだけでなく、その着け方についても話したいと思います。
武具の着け方は知っていますか？ ネタバレ注意ですよ。
祈りです。祈り。

それで武具を着けるのです。
私も実際に試したことがあるのですが、複雑な祈りではありません。
毎日、その日の事々に直面する前に、祈りを通して神の武具を着ける人たちの話を聞いたことがありますが、これは知恵だと思います。

これは来週のメッセージ。今日はしませんよ。
もう一度ここを強調しますが、これは自己義ではありません。
そうだと汚いボロボロ布になってしまいます。

ところで、これはイザヤの原文の意味ですが、クリスチャンが正しく生き、清さの中を歩む時に生じる義。
清さは力強いものですよ。
戦いに、遊び場ではなく戦場に、正しく清く生きる力で臨む。
だから、サタンはいつも心臓を狙っているのです。

③福音の備え（履物）

簡単に説明しますが、様々な理由で興味深いです。
ローマ兵の履物には鋭利な釘が付いていました。スパイクをイメージして下さい。
これに関して調べていた時、よく使う言葉ではありませんが、“shod”（靴を履く）という言葉がありました。

the car was shod with tires (タイヤを履いた車) のように用います。

shod には、険しい地で兵士の足元を堅固にすることで安定させ、戦闘に備えさせるという意味合いが含まれているのですが、これは、福音が私たちに与えてくれるものです。

戦いの真っ最中に、私たちに安定を与え、険しい道を進むことができるように備える堅固な足元、それが福音だから。

福音の靴、平和の福音の備え。これは、イエス・キリストの愛をしっかりと伝える上で必要なものです。

ある注解者が書いていたことが興味をそそりました。

“アレクサンダー大王とユリウス・カエサル（シーザー）の両方が軍事的に成功した大きな理由は、兵士たちが適切な履物を履いていたからである。

その履物によって、起伏の多い地形の長い行程を、驚くべき速さで進むことができた。”

裏に鋭いスパイクが付いたサンダルを履いているのを想像して下さい。それから革ひもも。

これらは足を保護するだけでなく、転ばないように足元を安定させるのです。

これが安定と備えを与える福音です。

④ 信仰の盾

パウロが「持ち上げなさい。」と言っているのに注目して下さい。

ある翻訳では、「**これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。**」

そうすることによって“火矢”、別訳では“燃えている投げ矢”を消すことができるから。

これらすべての上に (above all) とはどういう意味でしょうか。

他の武具よりも重要だということ？

違います。

神から与えられた想像力を働かせてほしいので、スクリーンに映像は出しません。

神はあなたにパワフルな想像力を与えていますから、心の目で見て下さいね。

あなたは盾を持って、編隊を組んでいます。

敵が火矢を放ちました。

それらは空中を飛んで“編隊の上に” (above all) 落ちて来る。

それで、全編隊は盾を“自分たちの上に” (above all) 上げます。

ある注解者が示唆していますが、盾は、“実矧ぎ (さねはぎ)” のようで、

(* 一方の板の側面に細長い突起を作り、他方の板の側面にあけた溝にそれを差しこんで接ぐこと)

全編隊は盾を自分たちの上に挙げ、互いの盾をカチッとつなぎ合わせます。

すると、突破不可能な要塞になる。

それで、火矢が飛んで来ても突き抜けることができません。

それだけでなく、盾は木と金属でできていたと言われていますが、それを水に浸すことで、飛んで来た火矢は鎮火されてしまうのです。

この光景をイメージできますか？

なぜこれが重要かという、木曜の夜の詩篇の学びでも話しましたが、これが、敵が最も成功している戦術の一つだからです。

あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

(I ペテロ 5:8)

敵は獅子のように、食い尽くし、破壊できそうな者を探し求め回っていますよ。

ライオンの特徴の一つは、獲物に忍び寄り、攻撃するのに最適な時を待つことです。

だから、誰かが仲間や陣営から離れるのを待っている。

もし、自ら外れるようなら、あなたは救いようのない人 (Dead Duck)。それも、大文字の D。(固有名詞になる) 仲間から外れて、どこでも好きなように盾を構えることはできるけど、それでは隙だらけで非常に攻撃され易く、とっても弱い。

だから、サタンは、クリスチャンを他のクリスチャンたちから引き離そうとするのです。

ヘブル書に書いてありますが、クリスチャンがキリストの体である教会に集うのを止めるようにすることが、サタンの最も成果ある戦術の一つです。

⑤ 救いのかぶと

これにも時間をかけたいと思いますが、理由はすぐに分かります。

この武具の重要性を誇張したくはありませんが、軽視したくもありません。

軽視することは、もっと大きな問題ですから。

クリスチャンの精神衛生のことは、余り重要視されていません。

思いのことで。

「体、心、力、思いを尽くして主を愛す」のではありませんか？

思いですよ！

思いに関心を払わないことが、キリスト教界内の大いなる無知に一役買っているのです。

パウロがコリントの教会に書いたことを思い出します。

「サタンの戦略、悪たくみ、策略に無知であってはならない」

これによって、サタンは多くのクリスチャンをものにしていきます。

サタンはあなたの思いを攻撃して、自分のものにする。

他の全てはどうでもいい。

あなたの思いの中が戦場です。

なぜならサタンは、あなたをものにして滅ぼすことができる場所が、あなたの思いにあることを知っているから。

こう考えて下さい。

あなたは神の似姿として造られました。

体、魂、思い。面白いですね。三位一体の本性。

さて、サタンはあなたの思いを読むことはできませんが、思いに入り込むことはできます。

つまり、サタンはあなたの思いの中に、考えをもたらすことができるということ。

サタンは気づかれぬようにやるので、あなたは自分の思いという土壌に種を植えたのがサタンであることが分からない。

それで知らない内に、その考えを受け入れ始めてしまいます。

疑い、恐れ、心配、パニック…

後に続くものをそれぞれで挙げて下さい。とても長くなるはずですよ。

私の書齋に、不朽の名作の素晴らしい参照本があります。

Warren Wiersbe (ウォーレン・ウィズビー) 著 “サタンの戦略”

私は彼のファンです。

この本から引用します。

“サタンはあなたの思いを攻撃する。それは神に似せて造られたものであり、神があなたと会話する所であり、みこころをあなたに示す場所であるからだ。

一部のクリスチャンが、思いの重要性を過小評価しているのは嘆かわしい。

なぜなら、聖書はその重要性を強調しているから。

サタンがあなたに偽りを信じ込ませるのに成功したなら、罪へと導くために、あなたの人生で働き始める。

だから、サタンは思いを攻撃するのであり、よって、あなたは邪悪なものの攻撃から、自分の思いを守らなければ

ばならないのである。

あなたの思考は、あなた自身の感情と意志/意思に影響を与える！”

最後の文によく注意して下さい。

それから彼は、**箴言 23:7** を引用しています。

彼は、心のうちでは勘定ずくだから。あなたに「食べ、飲め」と言っても、その心はあなたとともにない。

(新改訳 2017)

彼はその欲望が示すとおり人間だ。「食べるがよい、飲むがよい」と言っても心はあなたを思っていない。

(新共同訳)

これは基本的には「彼は、自分自身が考えている通りの人である」ということ。

つまり、私たちは自分が考えた通りの人になっていくのです。

サタンが恐れの種類、恐れを植え付けると、あなたは不意に恐れでいっぱいになるのを感じ始める。

そして、次に何が起こるかは、皆さんも知っているはずです。

「でも神様は、恐れを霊を与えないと言っていますよね。」

確かに。

しかし、自分の思いを守らなければなりません。

ローマ書 12 章にあるように、“思いを一新する” 必要さえあると言えます。

むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。(ローマ 12:2)

神のことばである、水で「洗脳」されましょう。

救いをかぶとになぞらえているのはなぜでしょうか。

サタンが最もよく行い、かつ、最も成功していることは、クリスチャンに救いを疑わせること。

あなたの思いにその疑念を置く。

それが攻撃です。

あなたは疑いを持ち始め、心配し、恐れ、そうして不安でいっぱいになる。

それは全て、サタンがあなたの思いの中に考えを入れ、あなたがそれに捉われるようにし、神の御言葉に従わないから起こることです。

御言葉は真理です。

とても大切なことなので繰り返します。

敵が考えをもたらす時、「待て！ 止まれ！ 動くな!!」

だけどふっと、恐れ始めて、大抵、こんな考えが頭をもたげて来る。

「もし…だったら、どうなるだろう、どうしよう。」(what if)

この言葉、嫌いです。

皆さんも“…”を埋めることができますよね。「もし、…だったら」

私たちの思考は、最悪のシナリオをでっちあげる能力があるのではないのでしょうか。

放っておくとサタンの思い通りになって、最終目的地に着いてしまいます。

考えられない、想像もできないことですが。

もう一つは「…はどうなの？」(what about)

正直に、私自身のことを話しましょう。

皆さんを不快にしないといいのですが。

サタンは、他の何よりも、この方法で私に近づいて来るのです。

率直に言いますが、敵は、攻撃を仕掛ける私の領域が何であるのかを知っています。

それは、私の生き甲斐の領域です。

私の脳がそういう仕組みになっているのか、育ちのせいなのか分かりませんが、私はすぐに恐れたり、心配してしまう傾向があって、とりわけ子供たちのことになるとそうなんです。

サタンはそれを知っている。

だから、こんな思いを持って来ます。

「彼らがメールをしながら運転していたらどうしよう。」

「もし、自動車事故で死んだら…」

「既に一人亡くしているのに、また別の子を亡くしたら…」

サタンは、私にどうやって近づけばいいのかを知っている。

結婚に、ではありませんよ。

私の結婚生活はとても祝福されていて、攻撃することができないと分かっているから、サタンはそこから近づくことはしません。

私と妻は一つで、私たち夫婦は堅く結ばれているから、そこに触れることはできない。

だから、子供たちを通して近づいて来る。

サタンはそうにして、私をやり込めようとするのです。

娘は11歳。

「もし…、彼女が結婚する前に、主が戻って来ないとしたら…どうしよう！」

私は牧師としてたくさんの結婚式を執り行っていますが、花嫁とヴァージンロードを歩いて来た父親に、「この花嫁を嫁がせる方は？」と言う時になると、毎回、赤ちゃんのように泣いてしまうのです。

神が証人です。

花嫁よりも牧師の方が、ティッシュが必要だなんて、情けないですよ。

父親を見ると、「おお…、将来の私の姿だ…！」

OK、気分が良くなりました。

心の重荷を下ろす必要があったんです。

ともかく、サタンは、様々な恐れに満ちた「もし…だったらどうしよう」や「…はどうなの」という考えを以て、私の思いに攻撃してくるのです。

そして、それは私の感情に影響する。

なぜなら、“人は自分が考えている通りの人になる”から。

もう一つ。

パウロは携挙に関する文脈で非常に興味深いことを言っていて、エペソの教会に書いたことをそのまま繰り返しています。

しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいきましょう。(Iテサロニケ5:8)

“救いの望みというかぶとをかぶり”

ここを指摘するのは、これが祝福された希望だから。

いつの日かラッパが鳴って、キリストにあって死んだ者たちが先によみがえり、生きている私たちは主と会い、主と共に過ごすために携挙されるという、私が抱いている希望。

誇張はしませんが、これがその希望でないなら、私は文字通り気が狂ってしまうでしょう。

大袈裟に言っているわけではないので、見下さないで下さいね。

特に、この世の悪がますます増大するのを目の当たりにしていると、ニュースを見るのがとても辛くなります。消さずにはいられない。

ついて行けない。

「気が狂ってしまうって言いましたね。」という顔をしている人がいます。

そんなような事を言ったと思いますが、誇張なしに、祝福された希望が、私の正気を保ってくれているのです。

志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。

その人があなたに信頼しているからです。(イザヤ 26:3)

自分の思いと希望とを主に置き続ける必要がある！

ラッパが鳴るその日、私は救われている！

それが、私を正気に保っている錨です。

そうじゃなかったら、正気を失ってしまいます。

他にどんな希望があると言うのですか。

イエス・キリストにある贖いと救いの祝福された希望こそが、希望ではありませんか。

それが、私が心待ちにすべきもの、私の将来。

それが、この御言葉。

わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている—主のことば—。

それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

(エレミヤ 29:11)

希望!!

「人は食べ物なしには長く生きられない。水がないならもっと生きられない。だが、希望がなければ1秒と持たない。」と言われていました。

希望とは、あなたの思いを守る、祝福された救いの希望なのです。

⑥ 神のことばである御霊の剣

最後になりますが、これも大事なものです。

これは、よく目にする長い剣ではなく短剣で、ローマ兵が接近戦で使用した小さくて短い剣です。

なぜそれが重要かというと、これが唯一、あなたが接近戦で戦うための攻撃用の武具だから。

私たちは手元の、手の中にある御霊の剣（神のことば）を用いて戦いを繰り広げるのです。

この例として完璧なのが、救い主がサタンに誘惑された時のこと。

主は何をしましたか？

神のことばである御霊の剣を取り、この時は申命記を引用して使いました。

そうしてサタンは、接近戦で主に打ち負かされ逃げ去った。

主は神としてではなく、人としてこれを行ったのです。

私たち人間が真似ることができるように。

私たちも接近戦でサタンに立ち向かい、勝利することができるように。

これで終わりにしますが、先週お話したように、私たちはサタンを打ち負かす必要はありません。

いいですか。

あなたはサタンを打ち負かさなくていいんです。

サタンは既に敗北した敵だから。

あなたはただ、既にあなたのものである勝利の内を歩めばいいだけ。

パウロはこれらの武器のたとえを通して、実際にどうすれば良いのかを教えてくださいました。

あなたも神の武具全てを準備万端に整え、それら全部を身に着けて、勝利の中を歩むことができます。

それがあなたを守るから。

そして、手には、決め手である攻撃用の武具、神のことばを握っているから。

祈りましょう。

天のお父様、心から感謝します。

主よ、私が教えるのをあなたはご覧になりました。

私はベストを尽くしましたが、残りをあなたが聖霊によって成し遂げて下さい。

それは、あなたにしかできません。

そして、人生に於いて非常に重要なこの領域で、私たちが実践できるように助けて下さい。

主よ、感謝します。

イエスの御名によって。

アーメン。

.....
「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi